

平成30年度事務事業評価シート

取組みコード 21322

区分	事務事業	担当課	道路課	作成日	平成30年5月10日
事業名	道路維持管理経費(道路照明灯交換工事に限る)	開始年度	平成26年度	予算科目	7・2・2・1・1

1 事業の概要

総合計画での位置づけ	
部	第2部_安全で安心して暮らせるまちづくり
章	第1章_災害対策と安全対策
節	第3節_交通安全と防犯対策
基本施策	2_交通事故の未然防止
取組みの基本方向	(2)カーブミラー、ガードレール、道路照明灯等の交通安全施設の整備
根拠法令等	道路法
目的 (誰・何を対象に、何のために)	町道通行車両の安全の確保を図る。
内容・方法 (何をを行っているのか)	劣化の激しい照明灯を更新するとともに、灯具をLED灯に交換することにより、通行車両の視野を確保する。

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名		基準年度	平成34年度			
	『交通安全対策の推進』について「満足」と感じる住民の割合		37.4%	41.0%			
		交通事故発生件数	104件	52件			
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果	交通事故の未然防止						
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度(平成27年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
交通事故発生件数	減	交通事故発生件数(基準年度から平成34年度に向かって均等に減少するように設定)	計画値	/	97.0	89.0	82.0
			実績値(見込値)	104.0	117.0	144.0	
			達成度※自動計算	/	82.9	61.8	
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動	道路照明灯の改修						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成28年度	平成29年度	平成30年度
道路照明灯の改修数	増	既設照明灯の改修個数	計画値	/	2.0	2.0	2.0
			実績値(見込値)	/	2.0	2.0	2.0
			達成度※自動計算	/	100.0	100.0	100.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

(E) 平均人件費(円/年) 8,300,000

年度	基準年度(決算)(平成27年度)	平成28年度(決算)	平成29年度(決算見込)	平成30年度(予算)	
(A)事業費(円)	1,576,800	1,782,000	2,268,000	2,235,600	
(B)概算職員数(人)	0.020	0.020	0.020	0.020	
(C)=(B)×(E) 人件費(円)※自動計算	166,000	166,000	166,000	166,000	
(D)=(A)+(C) 総事業費(円)※自動計算	1,742,800	1,948,000	2,434,000	2,401,600	
単位当たりコスト※自動計算	16,757.7	16,649.6	16,902.8		
財源内訳(円)	特定財源				
	国庫支出金	459,000	580,000	616,000	579,000
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
一般財源※自動計算	1,283,800	1,368,000	1,818,000	1,822,600	

4 事業の項目別評価(分析)

項目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である	○	A
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において実施している事業との重複がない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている		
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な事業である	○	
	上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成29年度の目標を達成している	×	C
	基準年度と比較して成果が向上している	×	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増、成果ダウン	C
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5 特記事項

・効率性のC判定については、基準年度(平成27年度)と比較し工事施工に伴う人件費及び材料費が高騰しているためである。

6 自己評価(担当課)

評価結果	拡充
理由	水銀灯は2020年で製造中止になるが、町内の道路照明灯344基の内、半数以上が水銀灯であり、早急な交換が必要のため更なる拡充を図るもの。
今後の方向性	経年変化に伴う錆等により腐食が進むなど、劣化の著しい道路照明灯を計画的に水銀灯からLEDへ灯具を交換し、交付金等を活用しながら改修個数を増やし、視野を確保することで、交通事故の軽減を図っていく。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	拡充
今後の方向性に係る意見等	水銀灯が製造中止になることから、早急な交換が必要になることに加え、LED等に交換することによる電気代や維持管理経費の削減効果、工事基数を増やすことによるスケールメリットも期待できるが、初期投資に多くの財源を要するため、国の交付金等を活用することや、リース方式の検討など、拡充するにあたり慎重な精査を行ったうえで実施するべきである。

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	拡充
今後の方向性に係る意見等	

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

今後の維持管理コストや初期投資額を比較検討したところ、独立柱の建て替えに併せ、国の交付金を活用したLED化を進める現行の方式が有効であることから、工事基数を増やし更新を行うことで、トータルコストの削減及び交通安全の確保を図っていく。なお、今後もリース方式との比較検討を継続し、より有効な方式で実施していく。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	拡充
理由 改善方針	所管課の方向性のとおり、更新基数を増やすことにより、スケールメリット及び将来にわたるトータルコストの削減が期待できることから、事業の拡充を行う。